

第177回 むつ市国民健康保険運営協議会会議概要

開催日時： 平成28年1月25日（月）午後6時30分

場 所： むつ市役所 大会議室A

出席委員： 半田会長、富岡委員、木村委員、坂本委員、三上委員、田中委員、山田委員、堀内委員、中村委員、中野委員、近原委員（委員＝11名）

関係部局： 柳谷民生部長、東政策推進監、工藤健康推進課長、赤坂税務課長、加藤総括主幹、伊藤主幹、佐藤川内庁舎市民福祉課長、笹谷大畑庁舎市民福祉課長、山崎脇野沢庁舎市民福祉課長

事務局： 藤島国保年金課長、古屋敷国保GL、佐藤主任主査、上林主任主査、澤田主査、山田主事、畑井主事

平成27年度第6回目の国保運営協議会の開催となる。
審議は前回に引き続き、第175回協議会において諮問された「むつ市国民健康保険税率の改定」について行われた。

1 開 会

2 議事録署名委員の選出

- ・議事録署名人として、近原委員が選出された。

3 審 議 内 容

- ・前回の協議会において要望のあったシミュレーションについて詳細な説明、国保財政についての説明を行った。主な内容は次のとおり。

- ・主な歳出は、保険給付費、後期高齢者支援金、介護納付金、共同事業拠出金、保健事業等ということになる。

- ・歳入は、本来であれば、国保税と公費で半分ずつを賄うということになっている。これまで、定率国庫負担等の率の変動する等、制度が変わる中で、国保税にも足りない部分が出てきた。そこに、財安定化支援、高額医療共同事業、基盤安定負担金等が加えられ、現在、国保税は歳入の約22%となっている。

- ・シミュレーションを実施するに当たっては、被保険者数の見込みが一番重要な部分である。今回のシミュレーションの算出方法は、単純に過去の推移から被保険者数を求めているのではなく、各年代の構成人数を踏まえて平成29年度までを予測している。毎年、後期高齢者医療制度へ抜けていく人数、40歳到達で介護保険の対象となる人数、65歳到達で2号被保険者から1号へ抜けていく人数といった、様々な要素を計算してシミュレーションを行っている。

- ・各項目のシミュレーションについては、全て、過去の実績等を踏まえて予測された被保険者数及び予測された単価、複数年にわたる概算、精算項目などを十分精査して、現行制度の中で示されている計算式をそのまま利用しながら算出している。

- ・説明の後、会長から全委員への意見聴取が行われ、税率引き上げに関しては了承しがたいが、現状を考えればやむを得ないという意見であった。その中において、収納率の向上、医療費の

適正化、健康づくりの推進、幼児教育の段階から健康に対する意識付けが必要等の意見が出された。

・次回の審議では、これまでの審議内容を踏まえた答申案のとりまとめを行うものとし、審議は終了した。

4 閉 会